

JILL STUARTとJILL by JILL STUARTが
水原希子との初のコラボレーション商品を4月19日(水)より発売
～女性をエンパワーするプロジェクト「W/J (ウィズ ジルスチュアート)」第2弾企画～

2023年4月12日

株式会社TSI（東京都港区 代表取締役社長 下地毅）が展開するアパレルブランド「JILL STUART」と「JILL by JILL STUART」は、女性をエンパワーするプロジェクト「W/J (ウィズ ジルスチュアート)」のコラボレーション企画として、女優やモデルとしてグローバルに活躍する水原希子さんとのコラボレーション商品を2023年4月19日(水)より発売します。また、4月12日(水)より先行予約を開始し、同日より特設サイトをオープン。水原さん出演の「KIKO MIZUHARA W/J」コンセプトムービーやインタビューを公開します。

特設サイト URL : https://store.saneibd.com/catalog/with_jillstuart/wj_kiko.html



水原希子さんとの初のコラボレーション企画「KIKO MIZUHARA W/J (with JILL STUART)」

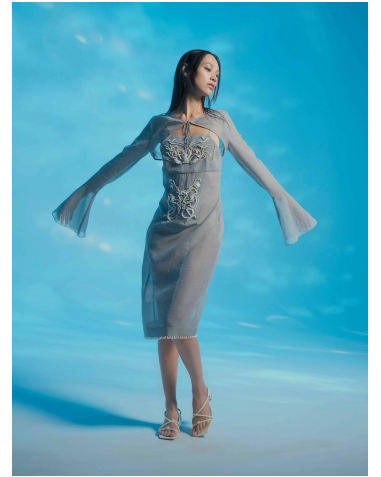
水原さんとのコラボレーション商品は JILL STUART のアパレル 3 点と、JILL by JILL STUART のアパレル 3 点とバッグ 3 点を 4 月 19 日(水)より、店頭とオンラインにて発売し、4 月 12 日(水)からオンラインにて先行予約を開始します。さらに、同日より特設サイトがオープン。水原さんが出演する「KIKO MIZUHARA W/J」コンセプトムービーやインタビューを公開します。本コラボレーション商品は、水原さんのパワーの源の 1 つでもある「海」の要素のモチーフや、JILL STUART がブランドの本質として大切にしており、水原さんも心惹かれるというクチュールやヴィンテージ商品の「1 点もの」という特別感やときめきを詰め込みました。世の中が目まぐるしく変化する中で、ファッションを楽しみ、自分の個性を表現することを応援するコレクションとなっています。ファッションも、人生も、自分が心の底から好きだと思えることに挑戦し、女性であることをより一層楽しんでいただけたらと思います。

水原希子さんとのコラボレーション実現の背景

JILL STUART はブランドパーパスとして「今日よりも華やかな明日のために」を掲げています。現代女性を勇気づけ、一步を踏み出すきっかけを提供したい、女性という概念に囚われず、女性であることを楽しみ人生を謳歌してほしい、というブランドの想いは、自分の個性を大切に、多様な自分を謳歌する水原さんの姿勢と共通しているため、今回のコラボレーションをオファー、実現に至りました。等身大な発言が共感を集める水原さんのパワーと、JILL STUART のブランドが持つパワーの相乗効果で、世の中の女性をエンパワーできればと思います。

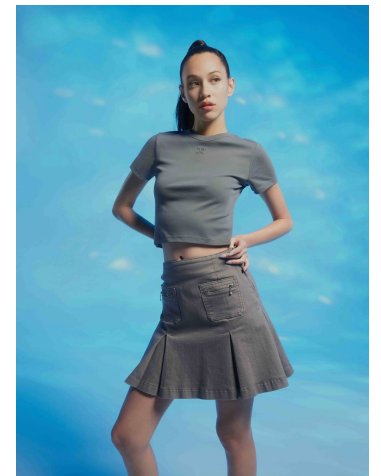
JILL STUART コラボレーション商品詳細

JILL STUART は、水原さんがパワーを得ているという「海」の要素をモチーフに、シアーオーガンザドレス、シアーオーガンザブラウス、レースミックスキャミソールドレスの計 3 点を発売します。シアーオーガンザドレスには海や水、リフレクションを表した素材を使用し、自分だけの特別なものに心惹かれるという水原さんのお話から、一つ一つ丁寧に作られるシェルやパールの手刺繍といったチュール要素を取り入れています。同素材で作ったシアーオーガンザブラウスは、ファッションブルでありながらも日常的に着用できる万能なアイテムとして水原さんから提案。レースミックスキャミソールドレスは、ヴィンテージの要素も感じさせる海の波を模したレースやヒトデモチーフのレースなどのあしらいが特徴。23SS シーズンコンセプトである「Bloom in the mirror」を連想させる線対称のモチーフを起用しています。日常着にも特別な日にも、様々なシチュエーションに合わせてコーディネートし、楽しんでいただきたいアイテムです。



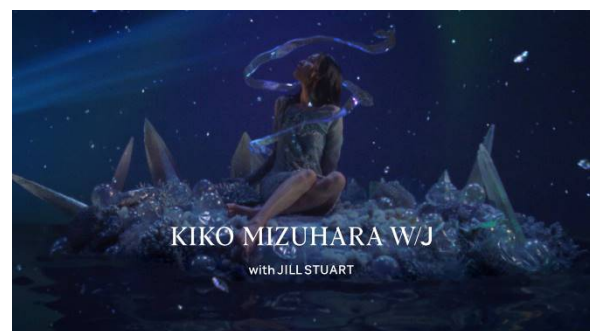
JILL by JILL STUART コラボレーション商品詳細

JILL by JILL STUART からは、ファッションの自由さを表現した、コンパクト T シャツとデニミニスカートのコーディネート、デニムワンピース、special edition バッグ 3 点の計 6 点を発売。自分のファッションや体型に対してポジティブな気持ちをもってほしいという思いを込めました。象徴となる 2 つのルックは、水原さんらしいタイトなシルエットのコーディネート。デニミニスカートは、水原さんにとって特にパワーをもらえるアイテムであり、歴史上でもパワフルな女性がファッションに取り入れていた印象があるということから、女性をエンパワーするアイテムとしてラインアップしました。コンパクト T シャツ、デニミニスカート、デニムワンピースは、ボディラインを綺麗に見せることを大切に、体にフィットする伸縮性のある素材を使用。また、各アイテムにカーゴディテールを施し、加工・色・パーツなど細部にも水原さんのこだわりを詰め込みました。ビジュやフラワーパーツを配置したバッグは、1 点物のときめきが好きだという話をヒントに、JILL by JILL STUART がこれまでコレクションしてきたコサージュやアップリケなどのパーツを再利用し、水原さんがデコレーション。環境問題にもポジティブなマインドを持ち、少しでも材料を無駄なく使用したいという水原さんの想いを形にしたアイテムです。



KIKO MIZUHARA W/J の世界観を表現した「KIKO MIZUHARA W/J」コンセプトムービー

水原さん出演のコンセプトムービーは、「多様な自分を謳歌する」をコンセプトとし、女性であることを楽しみながらファッションも人生も自分が心の底から好きだと思えることにチャレンジしている水原さんの姿を映像化しています。台詞ではなくインタビュー音声を使用しているため、水原さん自身のリアルな想いが映し出されたムービーとなっています。映像後半では JILL STUART と JILL by JILL STUART のシーズンコンセプト「Bloom in the mirror」を体現した鏡の世界へと誘われます。ファッションなど「自分にしか聞こえない、心から好きなこと」を通して得られる不思議な力を、水原さんが好きな「海」と融合し、幻想的な世界観で描いています。



今後の展開

23 年 4 月 12 日(水) : 「KIKO MIZUHARA W/J (with JILL STUART)」商品 EC 先行予約販売スタート
特設サイトにてコンセプトムービーやインタビューの公開

23 年 4 月 19 日(水) : 「KIKO MIZUHARA W/J (with JILL STUART)」商品 EC 店舗通常販売スタート
今後も各種プロモーションや SNS キャンペーンなどを展開予定です。

水原希子さんが今回のコラボレーション企画に込めた想い



ファッションは自分らしさを見つけられたり、自分らしくないけど新しい自分を見つけたりできるもの。そして、自分の中の多様なものを後押しするパワーを与えてくれるものだと思います。私自身、ファッションを武器に自分の個性をなんとか表現してきました。みんなにも自分の好きじゃない部分を隠すのではなく、どうしたら好きになれるのか、ファッションの力を借りて感じて欲しいです。

人生は一回きりなので、とにかく自分の好きなことや、自分にしか聞こえない自分の声に正直に突き進んでいくこと。それが自分の幸せだったり、自分の生きてる意味みたいなものを感じられる、一番手っ取り早い手段だと思います。例えば

ファッションでも、やらないで後悔するより、やってみてどう感じるかがすごく大事。何でもチャレンジし、その一歩を踏み出すことで見えてくる世界があると思うので、ぜひ自分の人生を自分らしいものにしてください。

ブランド担当 齊藤、デザイナー木村・社・栗原コメント

仕事に対して妥協しない水原さんの姿勢から、自信とパワーを感じました。水原さんがときめくポイントや、着用時のシルエット、バランスへのこだわりを汲み取り、手にしていただいたお客様へもその思いがきちんと伝わるよう企画しました。

いつもと違う新しいスタイルの JILL STUART と JILL by JILL STUART、そして新しい自分も発見いただけるような、また違う扉が開くコラボレーションになったと思います。ファッションのパワーと共に自分の好きを大切に、人生をより一層楽しんいただけることを願っています。

様々なコラボレーションで女性をエンパワーする「W/J プロジェクト」



顧客が自分らしく、幸せな毎日を過ごせるよう、女性をエンパワーするプロジェクト「W/J（ウィズ ジルスチュアート）」。これまで JILL STUART が服に宿してきた力と、時には服やファッションの領域を超えた多彩なコラボパートナーの力を掛け合わせて、バリエーション豊かな体験を提供。新しいクリエイティビティや出会いの場を生み出すことによって、顧客の人生をより自分らしく、楽しく豊かで意義あるものにすることを目指します。

水原希子さん プロフィール

水原 希子（ミズハラ キコ）

女優活動として、様々な映画やテレビ番組に出演。2010年「ノルウェイの森」でスクリーンデビュー。ヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞にノミネート。2021年に公開された『あのこは貴族』にW主演で出演し、2022年高崎映画祭にて最優秀助演女優賞を受賞。モデルとしてはニューヨーク、ミラノ、パリのファッションウィークに参加。The Weeknd & Daft Punk「I Feel It Coming」のミュージックビデオにも出演。また、デザイナーとして、2017年にブランドでありクリエイティブスペースであるOKを立ち上げ。誰もが自由に自分らしく解放できるスタイルと場を様々なアプローチで追求する。

JILL STUART とは

ニューヨーク出身のファッションデザイナー「ジル・スチュアート」によって1993年に発表されたブランドです。1997年に日本進出、2008年には姉妹ブランドである「JILL by JILL STUART」を発売し、現在全国にJILL STUART13店舗、JILL by JILL STUART20店舗を展開しています。

【会社概要】

株式会社 TSI 代表取締役社長 下地 毅 東京都港区赤坂 8-5-27 住友不動産青山ビル

<事業内容> 衣料品全般の企画・製造・小売り・卸及び輸出入 <URL> <https://www.tsi-holdings.com/>

【本件に対する問い合わせ先】

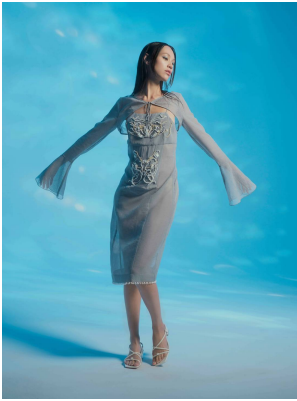
JILL STUART TEL : 03-5785-6454 JILL by JILL STUART TEL : 03-5785-6455

水原希子と JILL STUART / JILL by JILL STUART の初のコラボレーション

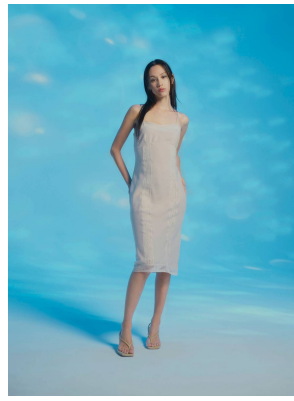
KIKO MIZUHARA W/J

2023年4月12日(水) 発売開始

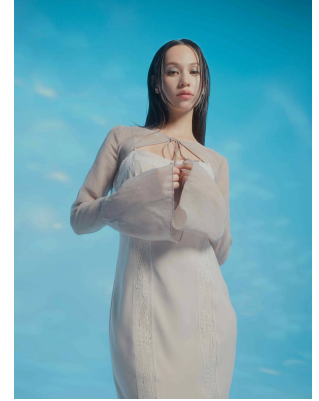
JILL STUART



KIKO W/J
シアーオーガンザドレス
¥ 52,800 (税込)



KIKO W/J
レースミックスキャミソールドレス
¥ 26,400 (税込)

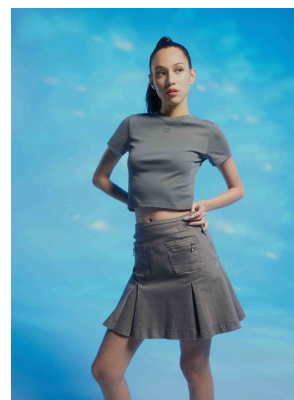


KIKO W/J
シアーオーガンザブラウス
¥ 14,300 (税込)

JILL by JILL STUART



KIKO W/J
コラボデニムシリーズワンピース
¥ 16,610 (税込)

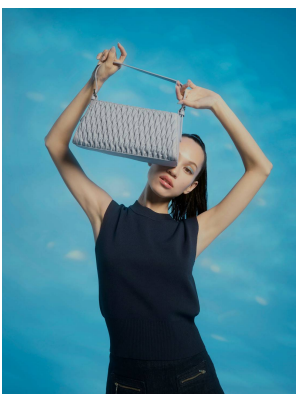


KIKO W/J
コラボコンパクトTシャツ
¥ 5,940 (税込)

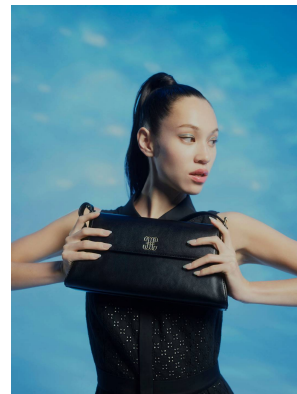
KIKO W/J
コラボデニムシリーズスカート
¥ 13,970 (税込)



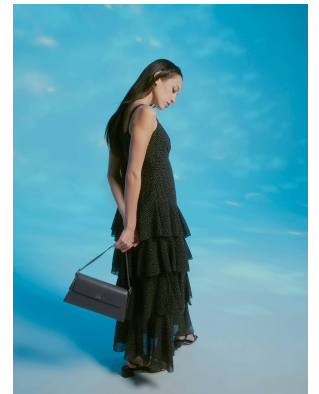
KIKO W/J
コラボバッグ(フラワー)
¥ 35,200 (税込)



KIKO W/J
コラボバッグ(キルト)
¥ 16,940 (税込)



KIKO W/J
コラボバッグ(フラップ)
¥ 15,620 (税込)



【別紙資料】「KIKO MIZUHARA W/J」コンセプトムービーの見どころ

KIKO MIZUHARA W/J の世界観を表現したコンセプトムービー

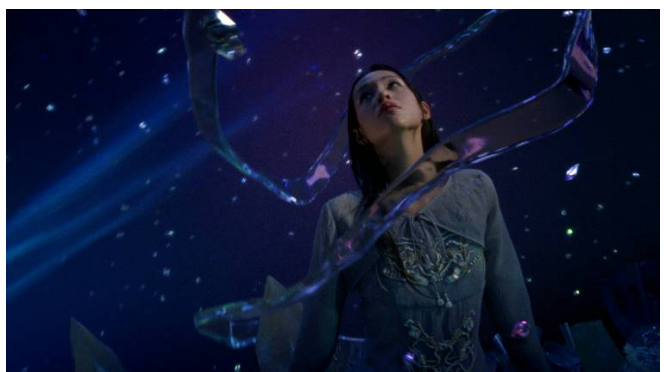
水原さん出演の「KIKO MIZUHARA W/J」コンセプトムービーは、「多様な自分を謳歌する」をコンセプトとし、女性であることを楽しみながらファッションも人生も自分が心の底から好きだと思えることにチャレンジしている水原さんの姿を映像化しています。台詞ではなくインタビュー音声を使用しているため、水原さん自身のリアルな想いが映し出されたムービーとなっています。



ムービーの前半部分では、オフの日のナチュラルな水原さんの生活や表情が描かれています。ドライブや映画鑑賞といった日常のワンシーンでありながら、インタビューの内容にリンクして巨大な水原さんの風船人形が登場し、車の横でクジラが泳いでいるといった、日常と非日常が交錯する不思議な世界観が展開されています。



後半部分では、幻想的な鏡の世界へと場面が移ります。友人と一緒に訪れたバーの鏡に違和感を覚え、水原さんが鏡に触れた瞬間に JILL STUART と JILL by JILL STUART のシーズンコンセプト「Bloom in the mirror」を体現した鏡の世界へと誘われます。ファッションなど「自分にしか聞こえない、心から好きなこと」を通して得られる不思議な力を、水原さんが好きな「海」と融合し、幻想的な世界観で描いています。



「変わり続ける自分を受け入れ、自由に自分を表現することの面白さ、そこに制限をかける必要はない、自信をもって前進したい」と感じただけのようなコンセプトムービーです。

Vol.01 「Items」

水原希子コラボアイテム

風をきって街を歩けるような

そういう不思議な

ファッションアイテム

多方面で活躍を続ける水原希子。彼女の持つ「多様な自分を謳歌する」その秘密を紐解くためのインタビュー企画。

Vol.01 「Items」では、自身がデザインした「KIKO MIZUHARA W/J」のアイテムについて、そこに込めた想いを語る。

● 世代を超えた、パワフルな女性たちを象徴するファッションアイテム

- 私は昔からずっとミニスカートが好きで、何でこんなに好きなんだろうって、すごい突き詰めて考えたことがあったんです。その時に気づいたのが、ミニスカートとロングブーツのコンビネーションって、パワフルな女性が今までの歴史の中で着てきたファッションアイテムだっていうこと。
- 例えば70年代の女の子達も、日本でいうコギャルも、ミニスカートとロングブーツ。ミニスカートとロングブーツは、履くと風をきって街を歩けるような、そういう不思議なファッションアイテムなんですよね。
- 自分自身でも、ミニスカートが特にアイテムとしてパワーをもらえるし、今日はかっこよく行きたいとか、今日は勢いがほしいなっていう、ここぞという時にミニスカートとブーツを選んでも自分がいるんです。
- なので今回、JILL STUART と JILL by JILL STUART でミニスカートとドレスをつくりました。ミニスカートからもらえるエネルギーをみんなに感じてもらいたいと思いました。
- また、「Bloom in the mirror」というシーズンコンセプトから「Mirror」をイメージして、JILL STUART のワンピースは波の模様をシンメトリーにしたり、自分なりの「Mirror」を表現してみました。
- バッグは、JILL by JILL STUART のコサージュやアップリケを自分で色々配置して、本当にアートピースみたいなアイテムをつくらせてもらって、それはすごい単純に楽しかった！

● 多様な自分を後押しするパワーこそ、ファッションが持つ本来の力

- ファッションにおいては実用性とか正直あんまり関係ないんです。持ってるだけでテンション上がるとか、これ着ているだけで今日はもう最強に可愛い気持ちとか、ファッションってそういうもの。
- 今回は私がとにかく着たいアイテムを作ったので、こういうふうに着るなって想像が自分の中ではついてるんですけど、逆にそれを裏切るような着こなしが見たいですね。リリースした後の楽しみは、みんながどんなふうに着てくれるか。驚かせて欲しいなと思います。
- そして、ファッションっていうのは本来、自分の中の多様なものを後押しするパワーを与えてくれるものだと思います。

- 流行りの服を着て、もちろんそれによって自信を得るっていうのも一つあると思います。でも、ファッションによって自分らしさを見つける、もしくは自分らしくないけど、新しい自分を見つけるみたいなこともできるもの。
- 今回この「KIKO MIZUHARA W/J」の映像をつくるにあたっては、色んな私が出てくる映像になると思うので、そういうものを感じていただきたいなと思います。
- 私自身もモデルとして、本当にいろんなファッションだったり、人物像だったりを演じてきているので、「あ、なんか私の中にも色んな私が出て、それで良くて、色んな私を出していきたいな」とか、「こういう時はこんな私を出していきたいな」と感じてもらえたらいいなって思っています。

Vol.02 「Roots」

水原希子の原点と葛藤

モデルと女優、 2つのアイデンティティと その葛藤

多方面で活躍を続ける水原希子。彼女の持つ「多様な自分を謳歌する」その秘密を紐解くためのインタビュー企画。

Vol.02「Roots」では、キャリアのスタートとなったモデル業と、突然チャンスをつかんだ女優業、2つのアイデンティティで揺れ動いたその葛藤に迫る。

- **家族のために始めた「モデル」、上京して自ら幅を広げた 10 代**
 - 私は 10 代でモデルを始めたんですけど、きっかけっていうのは、モデルになりたいとかそういうことではなかった。どっちかという現実的にウチの家族があんまり裕福じゃなくて、私の母と父が離婚して、母が一人で全部養っていたので「希子ちゃん、ちょっと働いて」っていうことで働き始めたのがきっかけだった。
 - 神戸出身だったので、そこから東京に新幹線で一人で出てきて、仕事して、数万円ぐらい稼いで、母にそれを渡して。家族のために働いてたっていうのが、一番最初のきっかけでした。
 - そこからファッションがすごい好きになって、写真芸術が好きになった。自分でも勉強するようになって、「モデルをちゃんとやりたいな」って思うようになり、16 歳で東京に出てきました。
 - 東京に出てきた時に、周りのモデルさんは結構ハーフの子が多くて、みんな英語を喋っていたんです。
 - それまでの私は、英語を話すことが恥ずかしいと思っていた。周りの友達がみんな話さないから、私だけなんか違うっていうのが恥ずかしくて、自分のアメリカのサイドを完全に封印してた。
 - でもそれからは「あ、英語しゃべれる方が幅が広がる」と思って、自力で英語を勉強したり、パリに行ってみたり、本場のファッションっていうものを体験したり、色々やったんです。

● 自分で自分が追いつかない、戸惑い悩みながらも表現を探究する日々

- その中で、突然映画のオファーをいただき、ダメ元でオーディション受けてみたら受かってしまい、全く自分が想像してなかった世界がバーっと進んでいった。
- モデルをやっていた時も、表紙飾れたことなんてなかった。ずっとたくさんいる女の子のうちの一人で、メインになることはなかったから、そんなふうになれると思ってなかった。
- でも映画に出てから、表紙を一人で飾れるようになったり、コマーシャルやテレビやドラマに出るようになって、だんだん自分で自分が追いつかなくなって、「自分はどいうなりたいたらいいんだろう」ということが分からなくなったんです。
- 芸能の世界がどんどんどんどん開いていって、そっちに向かっている自分に違和感を感じてた。
- その時に、写真家の荒木経惟さんに相談したんですね。そしたら荒木さんに、「希子は芸術半分、芸能半分で出来る子だから、それでやるのがいいと思うよ」と言われたんです。
- すごくシンプルな答えなんですけど、その当時、女優になるときはモデルをやめて女優になるって、一個に絞らなきゃいけないみたいな感じだったんですけど、「あ、二つのオプション持っていていいんだ」というふうに教えてもらって、そこからモデルとして写真芸術の世界に存在することと、役者を両立していいんだって思うようになりました。
- そこからは、まあ色々頑張って、事務所を独立して、お仕事もたくさんいただいてたんですけど、ある時、また「自分が何をしたいか」というのが分からなくなっちゃって。
- でも、私が持つクリエイティビティだとか、私が表現したいものが確実にあって、そういうものを表現できる場所を自分で作っていかないと気が付いたんです。コロナもあって自分の場所を探そうと思って、ちょっとずつアンテナを張って、自分と同じ意識を持った方とか、そういう人たちと繋がれるように発信したりコミュニケーションをとっている。
- これからも多分そうやって自分の居場所を頑張って探して、満足できるまでやり続けるんだと思います。まだ全然満足してないですね。

Vol.03 「Creativity」

水原希子の創造力

悩みや模索を

重ねながらそれでも

挑戦を続ける理由

多方面で活躍を続ける水原希子。彼女の持つ「多様な自分を謳歌する」その秘密を紐解くためのインタビュー企画。

最終回となる Vol.03 「Creativity」。悩みや模索を重ね、その先にたどり着いた自分。そしてファッションの持つ力とは。

- あせらずゆっくり、自分だけの声に耳を傾ける、悩む自分も受け入れる

- せっかく自分として生まれてきて、自分にしか聞こえない声ってあると思うんですよ。
- 例えば、何か表現したいって湧き上がることとか、頭にそのイメージがバツて入ってくることとかって、自分にしかわからないこと。だからそれを表現するには、自分で方法を考えて、自分なりのやり方でやってくしかないと思うんですよ。
- それは簡単にできることじゃないし、時間がかかることだけど、自分にしか聞こえないんだっていうところに自信を持つことが大事だと思います。
- あせる必要はないと思ってて、いろんな成功した方の人生をみていると、アルマーニとかも41歳でブランド設立たり、マティスも死ぬ直前ぐらいに書いた絵がバンって世の中に影響を与えたり、みんな下積みがすごいある。
- 自分の声に耳を傾けていくこと。そこに向かってコツコツコツコツ努力をしていくこと。好きなこと自分のやりたいことの時間を増やしていくこと。
- そういうことがすごい大事なんじゃないかなと思います。
- 悩んでる時間も決して悪い時間、ダメな時間ではなくて、実はすごい大事な時間。そうやって思ってる自分を責めずに、答えや結論がすぐ出てこなくても、何かその感情からピックアップして次に繋げていくっていうことだと思うので、「今、自分がそれで悩んでる」ってすごくいいことなのかもしれないと思っています。

• 恐怖心やネガティブな感情、「表現」が全てを包み込む

- (自己表現することに) 恐怖心は無いって言ったら嘘になるかなとは思いますが。ただ、やらないとすごくもったいない、せっかく自分にしか聞こえない声が聞こえているのに、それに応えられないと、「何のために自分として生まれてきたんだろう」とも思います。
- 実は、周りの目も常に気になるタイプなんです。いろんな人と比べて「何で私もっと『普通』になれないのかな」と思う時もあります。
- 私の場合、探そうと思えばいくらでもネガティブな言葉は溢れていて、正直たまに悲しいです。たまにっていうか、結構悲しい時もあります(笑)。でもまあしょうがない。その言葉に負けてしまっちはやっぱりいけないと思います。批判の声もある意味、みんな見てくれているということ。ネガティブな声の中には参考になること、なるほどなっていう学びもあるので、全てポジティブに受け止めるようにしています。
- ネガティブな声があると同時に、すごくポジティブな声を日本のみならず世界中から認識できているので、「その言葉を信じてやり続けたらその先に何かあるのかな？」って考えるようにもしています。結果どうなるのかわからないけれど、続けていくことが大事。
- 私が表現する人間でよかったなと思うのは、逆にそういうネガティブな感情を自分の表現として活かせることです。そういう感情になった時の自分を客観的に見て覚えておくことによって、お芝居だったり、「表現」に活かすことができる。
- ネガティブな感情もすべて飲み込んで吸収していくことで、なんか全部包み込めるんじゃないかなって思ってます。

• 好きじゃない部分を「どう隠せるか」ではなく、「どう好きになれるか」

- 若い時から、ずっと目立たない存在で、多分その当時私の周りにいた人は誰も、私がこんなふうになるって思わなかったと思うんですよ。
- 誰も私のこと信じてなかったし、誰も応援してなかったし。
- なんでしょうね、希子はもう別にそういうトップモデルになるような人ではないって多分全員思ってたんで、そういうふうな扱いも受けてきたし。
- でも自分が東京に出てきて、色々雑誌に出るようになって、周りのモデルさんがみんな眩しかったんですね。「私も自分にしか出せない魅力を自分で見つけて出さなきゃいけないんだ。」と思った時に、私なりにすごく頑張ってた。その当時みんなち

よって肌が焼けていて、髪の毛がロングで、ちょっと茶髪みたいなスタイルが凄い流行ってたんですよ。なので私はもう思い切って逆を行こうと思って、髪の毛を黒に染めて、肌を白くして赤いリップを塗って、クラシックなルックに持っていかようと思ったんですね。そうすることで、もしかしたらすごい個性が出るかもって。

- 私も私なりにすごい模索をして、一応それをやってみたら、みんなに面白いじゃん、希子なんかすごい良いじゃんっていうふうになって、やっと相手にされるようになった。
- 私もある意味ファッションを武器に使うって、自分の個性をなんとか表現してきた。
- だから、みんなもファッションをそういうふうに感じてほしい。自分の好きじゃない部分を隠すのではなくて、自分の好きじゃない部分をどうしたら好きになれるかって、ファッションの力を借りて感じて欲しいなって思っている。でもそれって本当に難しいこと。やっぱり周りの目が気になるし、この社会において、自分を表現するとか、自分を表に出す事って、もちろん叩かれることも、周りから変な目で見られることもあると思う。でも、やっぱり自分が気持ちいいと思ってやり続けることによって、それに賛同してくれる人が集まってくると思う。
- これはもう自分との戦いだとも思うんですけど、自分の個性とか自分のある意味好きじゃなかった部分は好きになれる、絶対にそうなれると信じています。だから諦めずに、ファッションの力を借りて、より自分のことを好きになってほしいなって私は思っています。

• 自分の人生を自分らしくする方法

- 人生は一回きりなので、とにかく自分の好きなことや、自分にしか聞こえない自分の声に正直に突き進んでいくこと。それが自分の幸せだったり、自分の生きてる意味みたいなものを感じられる、一番手っ取り早い手段だなと思います。
- 例えばファッションでも、やらないで後悔するより、やってみてどう感じるかってことがすごく大事。何でもチャレンジしてみて、その一歩を踏み出すことによって見えてくる世界があると思うので、ぜひ自分の人生を自分らしいものにしてください。